

- 一等 三十日 一町村七分以上災害ニ罹リシ時ニ給ス
 - 二等 二十五日 一町村五分以上災害ニ罹リシ時ニ給ス
 - 三等 二十日 一町村三分以上災害ニ罹リシ時ニ給ス
 - 四等 十五日 一町村一分以上災害ニ罹リシ時ニ給ス
 - 五等 十日 一町村一分未満災害ニ罹リシ時ニ給ス
- 第二項 同斷自カラ小屋掛ヲ營ム能ハス他ニ雨露ヲ凌クノ途ナキ者ハ左ノ等級ヲ標準トシテ小屋掛料ヲ支給ス尤同居居住ノ者ハ給セス
- 但些少ノ資力即チ地價百圓未満ノ地所ヲ有スルモノ及ヒ貳百圓未満ノ地所ヲ有スルモ罹災以前負債ノ爲メ該地所ヲ質入書入トナシタル者ハ本項ノ制限以内ノ金額ヲ支給ス
- 一等 金七圓五拾錢
- 家屋全ク燒失流亡シ古材ヲ以テ小屋掛ヲ營ム用ニ充ツル能ハサル者

二等

金五圓

家屋燒失流亡又ハ潰倒スルモ尙小屋掛ヲ營ム用ニ充ツル幾何ノ古材ヲ存スル者

三等

金貳圓五拾錢

借家居住ノモノニシテ一等二等ニ掲ケル如キ場合ニ在テ他ニ身ヲ寄スル所ナキ者尤一戸内ニ甲乙相借家ヲナス者ハ甲乙ヲ通シテ一戸分ヲ給ス

第三項 非常ノ災害ニ罹リ家屋燒失流亡シ爲メニ農具ヲ失ヒ現ニ農事差支ユルモ之ヲ購求スル能ハサル者ヘハ最寄相當代價_{下等}ニ依リ一戸金貳拾圓以内ノ金額ヲ支給ス尤モ罹災ノ當時ニ在テ季節ニ適セサルモノ_{假令ハ春季ニ唐稻扱唐箕ノ類}ハ之ヲ給セス但些少ノ資力即地價百圓未満ノ地所ヲ有スルモノ及ヒ貳百圓未満ノ地所ヲ有スルモ罹災以前負債ノ爲メ該地所ヲ質入書入トナシタル者本項制限以内ノ金額ヲ支給ス

第四項 流行病ノ爲メ目下飢饉ニ逼ル窮民ハ狀況ニ依リ男一人玄米三合_{七十歲以上十}五歲未満ノ男_{ハ女ノ割ヲ}女同ニ合ノ定メヲ以テ日數三十日以内適宜支給ス

第五項 連村連市一時ニ不慮ノ災害ニ罹リ目下窮困ニ迫ル者アルトキハ臨時焚出米ヲ給シ一時ノ急迫ヲ救フコトアルヘシ

但連村連市ニアラサルモ實際ノ狀況捨置カタキ場合ニアツテハ一町村ト雖モ施行スルコトアルヘシ

焚出日數ハ十日以内トシ其米額ハ一人一日白米二合五勺トシ男女老幼又其諸雜費ハ一人一日金壹錢五厘以内トス

焚出米ノ給與ヲ受ケタルモノ更ニ食料ヲ請フモノハ第一項ニ照シ焚出米ヲ給シタル日數ヲ扣除シ其残り日數ノ食料ヲ支給ス

焚出米ヲ支給スル場合ニ於テ一時身ヲ寄スヘキ小屋ヲ營ミ又ハ民家寺院等ヲ借入其場ノ急ヲ救フコトアルヘシ尤其費額ハ一戸ニ付金貳圓五拾錢以内トス

第六項 播種ノ季節ニ際シ非常ノ災害ニ罹リ種穀ヲ失ヒ植付ニ着手スル能ハサル者ハ其耕作ノ反別ニ應シ一戸若干ノ種穀料ヲ支給ス但其金額ハ農具料ト通シテ貳拾圓以内トス

第七項 非常ノ凶荒ニ際シ自カラ生存スル能ハサル者ニハ男一人一日玄米三合七十歳以上ノ割ヲ以テ給ス女同一合ノ積ヲ以テ日數三十日以内ノ食料ヲ支給ス

第八項 地租ヲ補助スルモノハ罹災ノ爲メ土地家屋ノ全部ヲ賣却スルニアラサレハ之ヲ納ムル能ハサルモノニ限ル

第九項 地租ヲ貸與スルモノハ罹災ノ爲メ土地家屋ノ内其幾分ヲ賣却スルニアラサレハ之ヲ納ムル能ハサルモノニ限ル

第十條 第九條第一項第四項第七項ノ米代金郡役所所在地前月ノ下米相場ニ依ル下米相場之レ無キ地ハ上米相場ノ一割引トス

第十一條 第九條第六項ノ種穀代ハ郡役所所在地地上米相場トス但穀一升ハ玄米五合ト見積計算スヘシ

第六章 救助補助貸與請願

第十二條 食料小屋掛料農具料種穀料ノ支給ヲ請フモノハ罹災ノ實況ヲ具シ戸長其事實

ヲ証明シ郡長ニ具狀スヘシ郡長ハ其具狀ニヨリ尙事實ヲ審査シ之ニ意見書ヲ付シ縣令ニ差出スヘシ但食料農具料小屋掛料ヲ請フ時ハ所有地地價及抵當借入金有無取調書并食料農具料種穀料ハ戶長ニ於テ仕譯書ヲ作リ願書ト共ニ差出スヘシ尤第九條第一項第五項ノ場合ニ於テ急施ヲ要シ縣廳ニ稟請スル違ナキ片ハ直ニ郡長ニ於テ施行ニ着手シ同時ニ其旨縣廳ニ具狀シ指揮ヲ請フコトヲ得

第十三條 第九條第八項地租ノ補助ヲ出願スルトキハ其罹災ノ實況ヲ具シ戶長ニ差出シ戶長ハ其事實ヲ証明シ之レニ與書シ郡長ニ差出スヘシ郡長ニ於テハ資産ノ有無等詳細取調意見書ヲ附シ縣令ニ差出スヘシ縣令ニ於テハ官吏ヲ實地ニ派遣シ之カ檢査ヲナシ其金額ヲ定メ之ヲ補助スヘシ

第十四條 第九條第九項地租ノ貸與ヲ出願スルモノモ又前條ノ手續ニヨリ縣令ニ於テ其金額及返納年限ヲ定メ之ヲ貸與シ拜借証書ヲ差出サシムヘシ

第十五條 第九條第一項第二項第三項第四項第六項ノ請願ハ其罹災ノ日ヨリ三十日以内

ニ縣廳ニ到達セサルモノハ一切採用セサルモノトス

第七章 貸與金返納

第十六條 貸與金返納年限ヲ定ムル左ノ如シ

地租ノ全額	十ヶ年賦
同九分以上	九ヶ年賦
同八分以上	八ヶ年賦
同七分以上	七ヶ年賦
同六分以上	六ヶ年賦
同五分以上	五ヶ年賦

以下此割ニ倣ヒ順次一ヶ年ヲ遞減ス

第十七條 貸與ノ年賦金額ハ毎年三月三十一日限リ上納スヘシ

第十八條 貸與金返納未済ノモノ死亡跡相續又ハ生存者ノ家督相續ニ係ルトキハ貸與金返納証書ノ書換ヲナスヘシ

第十九條 年賦返納期限内ニ其土地ヲ賣却スルトキハ貸與ノ金額ヲ一時ニ返納スヘシ

第八章 貸與金棄捐

第二十條 貸與金返納未済中再ヒ雨災ノ爲メ貸與ヲ受クル者ハ其年以後舊割賦ノ返納未済金ヲ棄捐スルモノトス

第九章 公債証書

第二十一條 儲蓄金及其他儲蓄ノ部分ニ屬スル収入金ノ内其年度一周歲ノ經費ヲ除キ其餘ノ金員ハ總テ公債証書ヲ購入ス可シ但當籤シタル金額ハ公債証書ヲ購入スルモノトス
第二十二條 非常ノ災害ニ罹リ救助補助貸與ノ金員多數ヲ要シ其年度ノ収入金ヲ以支辨スル能ハサルコトアルトキハ其要スヘキ金額ニ應シ既ニ貯藏スル所ノ公債証書ヲ賣却スルコトアルヘシ

第十章 金錢出納

第二十三條 公債証書購入若クハ交換ニ關スル諸雜費即チ送金及証書購入又ハ交換ノ手

敷料郵便稅電信料運搬費新聞紙公告料等ハ公儲金ノ内ヲ以支辨スヘシ

第二十四條 凡儲蓄ニ係ル金員ハ縣廳ニ於テ之ヲ保管シ其出納ハ官金取扱ノ順序ニヨル

第十一章 收支科目

第二十五條 備荒儲蓄金收支ノ科目ハ明治十三年十一月內務大藏兩省乙第卅八號達ニヨル

●甲二十三號 十九年二月廿七日

明治十九年度備荒公儲金課額通常縣會ノ決議ヲ取リ左ノ相定ム

地租壹圓ニ付

金貳錢貳厘貳毛

右布達候事

○甲第二十四號 十九年三月一日

明治十八年甲第五號布達茶業組合規則第四條第貳項ノ次へ左之壹項ヲ追加シ以下順次採下ク(改訂)

右布達候事

明治十九年二月 甲號

○甲第二十五號 十九年三月四日
十八年甲第百五號布達第三項但書更正(改訂)

○甲第二十六號 十九年三月四日
堤塘使用料并ニ官有地ノ土石堀取小柴下草等ノ雜産物年期ヲ以テ拂下タル料金ヲ期限ノ通リ上納セサルモノハ其使用并ニ拂下ヲ取消ス

料金上納ノ期限ハ従前ヨリ年期中ノモノ及六月前許可ノモノハ其一々年分ヲ七月三十日限リ七月ヨリ十二月迄ニ許可ノモノハ翌年一月三十日限リトス
右布達候事

○甲第二十七號 十九年三月五日
百噸以上ノ西洋形船舶所有者ニ限リ航海及碇泊記事自今左表ノ通記載シ毎年六月、十二月兩度ニ取纏メ翌月十五日限リ當廳へ差出スヘシ(左表畧ス)
但航海等ニテ差出スヲ能ハサル片ハ其旨届出歸港次第直ニ差出スヘシ

右布達候事

○甲第二十八號 十九年三月十五日

本年甲第十八號田圃虫害豫防規則第二條命令スル片ノ下(或ハヨリ以下指示スル片)マテノ廿九字ヲ削リ第六條(及ヒ)ノ二字ヲ(ハ)ト(協議)ノ二字ヲ(ハ)改メ第十條(勸業幹事又ハ勸業委員)ノ十字ヲ(戶長)ノ二字ニ改メ但書至テハノ下へ(戶長ハ)ノ三字ヲ加ヘ委員ノ下(ハ)ノ一字ヲ(ニ諮問シテ)ノ五字ニ改ム(改訂)

右布達候事

○甲第二十九號 十九年三月十九日

明治十七年(十二月)甲第百九號布達自今相廢ス

右布達候事

○甲第三十號 十九年三月三十日

海軍下士卒徵兵ハ明治十八年甲第八十戶籍上異動結婚ハアル片ハ其都度無遺漏戶長役場四號布達第二十二條ニ依ル除ク

明治十九年三月 甲號

郡役所并ニ縣廳ヲ經テ横須賀鎮守府へ届出ヘシ

但明治十年天甲第四百十三號布達ハ相廢ス

右布達候事

○甲第三十二號 十九年三月三十日

縣下海面漁場内ニ於テ來ル二十二年三月限ウタセ網(一名帆)ノ使用ヲ禁止ス

但名稱ヲ異ニスル漁具漁法ト雖モウタセ網ニ類似ノモノハ渾テ本文ニ準ス

右布達候事

○甲第三十二號 十九年四月六日

明治十五年(三月)甲第六十一號布達郡長委任條件第二十六項但書(市街地及)ノ四字ヲ削除シ并ニ左ノ各項ヲ追加ス(改訂)

右布達候事

○甲第三十三號 十九年四月十四日

十五年甲第六十一號布達郡長へ委任條件中十九年度以降左ノ一項削除(改訂)
右布達候事

○甲第三十四號 十九年四月十六日

明治十六年(八月)甲第七十三號布達諸公債証書賣買譲與等届出ノ儀ハ明治十九年度以降左ノ通改定ス(十九年甲六十七號ヲ以廢止ニ付左記答ス)

但明治十二年(五月)甲第五十八號布達ハ自今廢止ス

右布達候事

○甲第三十五號 十九年四月十九日

明治十八年(九月)本縣甲第八十六號布達廢止ス

右布達候事

○甲第三十六號 十九年四月廿三日

開令第三號ヲ以テ歳入歳出々納規則ヲ定メラレ候ニ付該規則中心得ヘキ條項別紙ノ如シ

明治十九年四月 甲號

右布達候事

(別紙)

歳入歳出々納規則

一此規則ニ掲クル歳入トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部へ收入スル所ノモノニシテ分テ二部トス但特別ノ收入ニシテ整理上部門ヲ分ツヲ必要トスル片ハ之ヲ加フルコアルヘシ

第一部 租税

第二部

手数料ノ性質ヲ以テ徴收スル諸收入官有ノ財産物品ヨリ生スル諸收入
官業益金罰金科料沒收金ノ類諸貸付若シクハ過渡等ノ返納金特別ノ事務ニ宛ル諸寄附金等總テ租税外ノ收入

一此規則ニ掲クル歳出トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヨリ支出スル所ノモノニテ分テ三部トス但特別ノ經費ニシテ整理上部門ヲ分ツヲ必要トスルトキハ之ヲ

加フルコアルヘシ

第一部

國債元利年金恩給諸祿ノ類

第二部

帝室御用度神社ノ諸費

第三部

各廳ノ經費

一此規則ニ於テ納入ト稱スルハ戶長各納稅者其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云
一此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏會社一私人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノヲ云フ

一此規則ニ掲クル金庫トハ大藏省金庫局其出張所及國庫取扱所若クハ現金仕拂所ヲ云

一金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スル者ヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

一此規則ニ稱スル收支命令官トハ金錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

一會計年度 每年四月一日ヨリ翌年三月卅一日迄ニ屬スル歳入歳出ノ出納ハ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

一各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歳出ノ仕拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三

十一日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

一歳入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監理シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スル者トス但左ニ掲クル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得

第一項 郵便收入

第二項 電信收入

第三項 公賣處分ニ依リ收入スル税金過料沒收金手数料ノ類

第四項 在外各廳ノ收入金

第五項 諸寄附金ノ類

一前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ収支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告スヘシ
一歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス但各廳ニ現金ヲ收納スル片ハ此限ニアラス

一第一部歳入中内國稅ヲ徵收スル片ハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス
一戶長ハ徵稅令書ヲ受ケタル片ハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス
一第二部歳入 稅關ノ諸收ヲ徵收スル片ハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會計主務官ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス
一第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前納期日ノ數日ニ涉ルモノハ其初日ノ十五日以前已下同シ
ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス
一戶長ハ徵稅令書ヲ受領シタル片ハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏ムヘシ
一第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其

都度納額告知書ヲ發スルモノトス

- 一 納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ
- 一 金庫ニ於テ納人ヨリ歲入ヲ領收スル片ハ其持參シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ
- 一 歲出ニ係ル現金ノ仕拂ハ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス
- 一 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ前條但書ノ項目ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ仕拂フモノトス
- 一 前條經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕拂切符ヲ發シテ之レヲ交付スルモノトス
- 一 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超エヘカラス
- 一 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日附後九十日ヲ過キタルモノハ次條ニヨリ之ヲ處分スヘシ

- 一金庫ニ於テ仕拂切符ノ日附後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ
- 一 各廳ハ前條ノ請求ヲ受クル片ハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス
- 一 現行法規中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス

◎甲第三十七號 十九年四月廿二日

明治十五年(三月)甲第六十一號布達郡長委任條件ノ內官地拜借料堤塘仕用料土石料下草料魚鳥料及土地竹木拂下代收入ノ義取消更ニ左之通委任ス(改訂)

右布達候事

○甲第二十八號 十九年五月七日

客年(六月)甲第五十九號布達醬油製造營業人心得方規則別冊ノ通更正ス

右布達候事

(別冊)

醬油製造營業人心得方規則

- 第一項 醬油(溜リヲ併稱ス)製造營業ヲ爲サントスルモノハ醬油稅則ヲ遵守シ左ノ各項ニ從フヘシ
- 第二項 新ニ營業ヲナサントスルモノハ第一號書式ニ倣ヒ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三項 製造場ハ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラヌ都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トスヘシ
但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油並ニ醬油膠又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止ムルモノハ製造場ノ附屬トスルコトヲ得
- 第四項 二人以上資力ヲ合セ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスルモノハ社則ヲ添ヘ其領取ノ名ヲ以テ願出ヘシ
- 第五項 製造場ヲ轉換スルトキハ稅則第三條ニ準據シ鑑札書換ヲ請フヘシ若シ他管下ニ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ縣廳ニ願出添翰ヲ受ケ鑑札書換方ヲ移轉地ノ管廳ヘ願出ヘシ

- 第六項 醬油製造人ハ稅則第十六條ニ據リ毎年一月三十一日限新ニ營業スルモノハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ其年製成スル見込ノ石數及ヒ其製造方法并ニ其年仕込ノ石數及ヒ其仕込方法ヲ第二號乃至第五號書式ニ倣ヒ届出其石數ヲ増減シタルトキハ第六號書式ニ倣ヒ其時々届出ヘシ
但製造方法ヲ變更シタル片ハ第三號第五號書式ニ準シ其時々届出ヘシ
- 第七項 醬油製造營業ノ免許ヲ受ケタルトキハ稅則第十七條ニ據リ製造場ハ一ヶ所毎ニ建物ノ構造ヲ繪圖面ニ製シ諸器械ノ員數ト共ニ第七號書式ニ倣ヒ届出ヘシ
但賣買讓與貸借新規修繕被解等増減變換アルトキハ本項書式ニ準シ時々届出ヘシ
- 第八項 營業人ハ製造場一ヶ所毎ニ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シ其年製成見込ノ石數ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ
但其石數ヲ増減シタルトキハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正スヘシ

免許鑑札番號

〆ノ尺三寸

「番號

○ 醬 油 何 石 造

三重縣何國何郡何町村何番屋敷
何 之 誰

豎曲尺三尺

第九項 桶甕類ハ新製修繕ヲ問ハス左ノ方法ニ據リ容量取調第八號書式ニ倣ヒ速ニ検査願出ヘシ

但甕類ノ木頂ニ準據シ難キモノハ便宜適實(水ヲ量リ其容量ヲ知ルノ類)ノ方法ヲ以テ取調ヘシ

桶甕丈量法

口徑 口頭ヨリ三寸 口底徑 底板面ハ孰レモ内測リニテ縱横 \oplus 圖ノ如ク度リ此
下リタル箇所 中央底徑ノ箇所
縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ

口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ
但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算 則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四(乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス)ヲ乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル
但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ヘシ

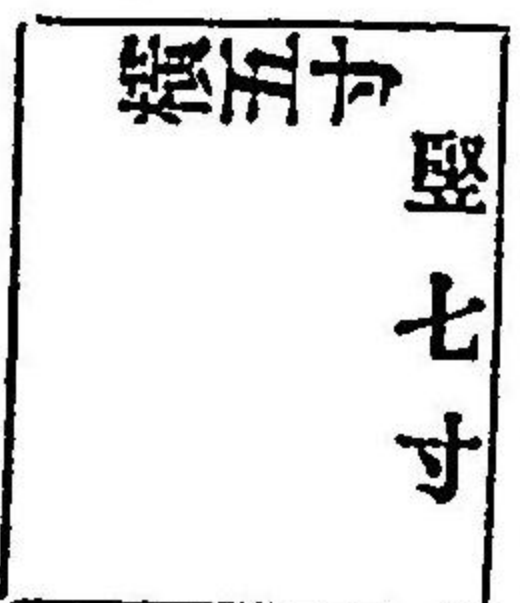
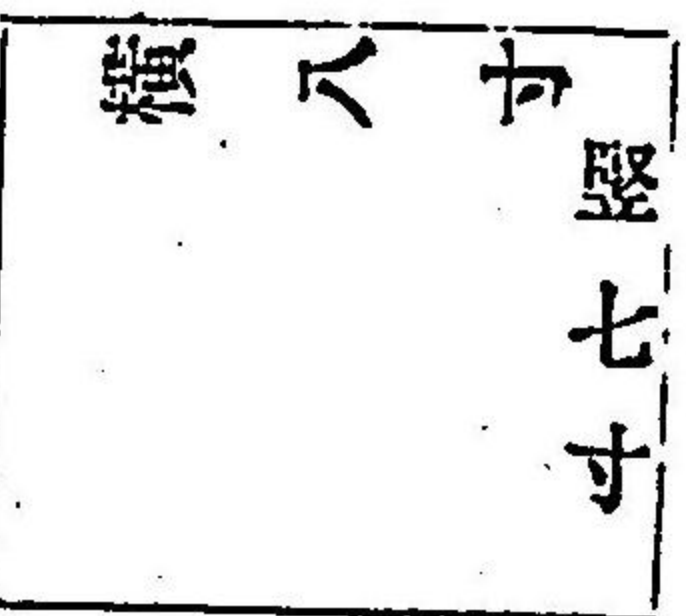
第十項 桶甕類ノ番號ハ製造場一ヶ所毎ニ起號シ其總數ニ應シテ順次ヲ定ムヘシ其他ノ諸器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖モ縣廳ノ烙印ヲ捺シ得ラルヘキモノハ之ニ烙印ヲ受クヘシ

明治十九年五月 甲號

但桶壘類ノ番號石數等ハ木札ニ記載シ之ヲ桶壘ノ前面ニ(桶ハ釘付壘ハ適宜)附スヘキニ付左ノ雛形ニ倣ヒ豫メ木札ヲ調製シ置クヘシ

桶ニ付スヘキ木札

壘ニ付スヘキ木札



木札ノ寸法ハ桶壘ノ大小ニ從テ伸縮スルモ妨ケナシト雖モ厚サハ五分以上ノモノヲ以テ調製スヘシ

第十一項 粕桶水桶等ノ類ニテ全ク醬油ヲ容レサルモノハ丈量ニ不及ト雖モ番號ハ桶壘ノ順號ヲ逐ヒ記號シ縣廳ノ烙印ヲ受クヘシ

第十二項 桶壘類ハ調査簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ縣廳ニ備ヘ乙帳ハ營業人ニ下附シ置キ増減ノ都度検査員ニ於テ之ヲ加除スルヲ以テ營業人ハ之ニ調印スヘシ

第十三項 調査簿ノ桶壘類及ヒ諸器械ヲ買賣讓與貸借又ハ返却スルハ桶壘類ハ其番號他ノ器械ハ其品目員數等ヲ記載シ其同業者ニ係ルモノハ双方連署ヲ以届出其非營業者ニ係ルモノ若クハ破解ニ屬スルモノハ其旨届出調査ヲ受タル後之ヲ授受又ハ破解スヘシ但廢業シタル片ハ速ニ届出消印ヲ請フヘシ若シ再營業ノ目的アルモノハ烙印保存ノ義務届出ヘシ

第十四項 醬油搾リ器械ノ封緘又ハ解封ヲ受ケタル片ハ第九號書式ノ請書ニ調印スヘシ但封緘セシ器械ヲ使用又ハ洗滌修繕セントスルトキハ日數ヲ豫定シ其旨申出解封ヲ請フヘシ

第十五項 器械封緘中賣與讓與貸與若クハ返却破解等ヲ爲サントスルトキハ其旨申出解封ヲ請フヘシ

第十六項 醬油ヲ仕込ミタルトキハ其石數年月日仕込順號并桶號ヲ記シ其都度届出ヘシ
第十七項 醬油醱ハ成熟ノ期日ヲ豫定シ第十號書式ニ倣ヒ五日前ニ申出検査ヲ受クヘシ

明治十九年五月 甲號

第十八項 検査済ノ醗ト味噌又ハ其他ノ物品トヲ混和シテ醬油ヲ製成セントスルモノハ
第十一號書式ニ倣ヒ前以申出検査ヲ受クヘシ

但前項及ヒ本項ノ検査以前ニ於テハ醗ヲ搾リ揚ケ又ハ溜リヲ採取ル等ノコトアルヘ
ガラス且本項ノ醗仕込番號ハ本造醬油ト各別ニ起號スヘシ

第十九項 醬油ヲ搾リ揚ケハ上溜ハ味噌ト生汁トヲ分離セシ後第十二號書式ニ倣ヒ五日
以內ニ申出検査ヲ受クヘシ

第十九項 醬油ハ搾リ上ケタル後又ハ火入ヲ要スルモノハ其火入ヲ爲シタル後及ヒ搾リ
上ケタル醬油ハ番水鹽水等ヲ混和シ火入ヲ爲シタル後溜ハ味噌ト生汁トヲ分離セシ後
第十二號書式ニ倣ヒ五日以內ニ申出検査ヲ受クヘシ (十九年甲五十一
號ヲ以本項改正)

第二十項 番醬油ト唱ヘ一旦搾リ揚ケノ醬油粕へ味噌及鹽水等ヲ混和シ再ヒ搾リ揚ケヲ
爲スモノハ第十八項第十九項ノ手續ニ準シ検査ヲ受クヘシ

第二十一項 粕漉ヲ爲サントスルトキハ其元石數及粕斤量ヲ記載シタル書面ヲ以テ届出

検査ヲ受ケ製成ノ上ハ更ニ第十九項ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

但製成ノ上原石數ヨリ超過シタル片ハ其増石數ニ係ル造石税ヲ納ムヘシ

第二十二項 造石検査ヲ受クヘキ醬油ハ桶罨等口頭ヨリ三寸ヲ減シ前面掲記ノ石數ヲ入レ

置クヘシ若シ其石數ニ滿タサルモノハ現在ノ入質ニ就キ左ノ算則ニ據リ容量ヲ取調フヘシ

端桶石數算法

入質胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス(此底徑ヲ求ムルニハ

口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シニ倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定

ノ底徑トス)

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四(乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度

ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之)ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ

石數ヲ得ル

入實胸徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス(此口徑ヲ求ムルニハ入實胸徑ニアルモノハ其胸徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胸徑ニ滿タサルモノハ胸徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス) 假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ甲トス 假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及〇、〇四〇三八四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第二十三項 醬油ノ滓引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ

第二十四項 他ヨリ醬油ヲ買入レタルトキハ其石數及ヒ買入先ノ住所氏名ヲ記載シ其時々届出ヘシ

但買入ノ際ハ仕切書又ハ送り狀等ヲ取置検査ノ節参照ニ供スヘシ

第二十五項 造石検査簿ハ甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ縣廳ニ備ヘ乙帳ハ營業人ニ下付シ置應

及ヒ醬油等検査ノ都度記入スルモノトス營業人ハ之ニ調印スヘシ

第二十六項 二ヶ所以上免許ノ者甲ノ製造場ニテ製造シタル未検査ノ膠ヲ乙ノ製造場ヘ移サントスル片ハ其届出成熟ノ上ハ第十七項第十九項ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

但營業中都合ニヨリ醬油膠ヲ同業者ニ賣渡サントスル片ハ其届出検査員ノ証明書ヲ受ケ之ヲ買受人ニ附スヘシ其買受人ハ右証明書ヲ添ヘ届出検査ヲ受クヘシ

第二十七項 稅則第十一條非常ノ損害(損害トハ水火震災并ニ腐敗等人爲ヲ)ニ罹リ造石稅ノ免除ヲ請フモノハ其實況ヲ詳記シ速ニ届出検査ヲ請フヘシ

但未製成ノ醬油モ本項ニ準シ検査ヲ請フヘシ

第二十八項 前項腐敗ニ罹ル検査濟醬油ノ粕漉等ヲ爲シ之ヲ改良シ得ヘキモノハ其方法ヲ届出改良ノ上検査ヲ受ケ其石數ニ係ル造石稅ヲ納ムヘシ

第二十九項 醬油製造人ハ稅則第十三條ニ掲ル帳簿ノ外左ノ帳簿ヲ調製シ第十三號乃至第十七號書式ニ倣ヒ其時々遺漏ナク記入シ置造石検査ノ際参照ニ供スヘシ

一 醬油藏出帳

一 醬油粕目方帳

第三十項 營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム
 ヘシ其代人ハ營業熟知ノモノヲ選定シテ附與シタル委任狀寫ヲ添ヘ其人名ヲ届出ヘシ
 但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置ク片ハ委任狀ヲ附與スルノ限リニ非スト雖モ後見人
 事故アリテ代人ヲ置ク片ハ後見人ヨリ附與シタル委任狀寫ヲ添ヘ其人名ヲ届出ヘシ
 第三十一項 檢査ノ節ハ製造ニ關スル建物及諸器械ハ勿論時宜ニ依リ其他ノ場所ト雖モ
 點檢スルコアルヘシ此場合ニ於テハ營業人若クハ代理人ニ於テ先導ヲ爲スヘシ
 第三十二項 檢査員ハ檢査印章ヲ携帯スヘキニ付請求ニヨリテハ之ヲ示スヘシ
 第一號

醬油營業御免許願

○印ハ朱書

國郡町村番屋敷

製 造 場

右製造場ニ於テ醬油製造營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度此段相願候也

國郡町村番屋敷(寄留)

(原籍府縣國郡町村番地)

營業人 何 之 誰 印

年 月 日

縣 令 何 某 殿

○奥印ヲ受クヘキ戸長ハ製造場所在ノ戸長タルヘシ

第二號

醬油製成見込石數御届

國郡町村番屋敷

製 造 場

一 醬油何百何十何石何斗

内何十石任入濟ノ分

大豆 何石

何麥 何石

何々 何程

免許鑑札番號

明治十九年五月 甲號

千三百八十九

鹽 何石
水 何石

右ハ明治何年(自何月至十二月)醬油製成見込石數前書ノ通ニ有之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

○溜リノミヲ製造スルモノハ醬油ノ文字ヲ溜ト換用シ兩種ヲ製造スルモノハ之ヲ區別

シテ列記スヘシ

○以下第一號書式ニ準スヘシ

第三號

醬油製造方法御届

免許鑑札番號

國郡町村番屋敷

醬油一ト仕込製造法

製 造 場

一番造

大豆 何石
何麥 何石

何々 何程

鹽 何石

水 何石

此見込醪 何石

但凡何ヶ月ニテ成熟豆麥何々ヨリ何割何分ノ見込

此見込醬油 何石

但醪ヨリ何割何分ノ見込

二番造

粕 何貫目

何々 何程

鹽 何石

水 何石

此見込醪 何石

但凡何日ニシテ成熟ノ見込

此見込醬油 何石

但醪ヨリ何割何分ノ見込

明治十九年五月 甲號

三造及番ヒ造リ方法ノ異ナルモノハ右ニ準シ列記スヘシ
右ハ明治何年(自何月至十二月)製成醬油製造方法前書ノ通ニ有之候尤モ以後變更候節ハ其時々御届可仕候也

第四號

以下第一號書式ニ準スヘシ

醬油仕込石數御届

國郡町村番屋敷

製 造 場

免許鑑札番號

一 醬油 何石

大豆 何石

何麥 何石

何々 何程

鹽 何石

水 何石

右ハ明治何年(自何月至十二月)醬油仕込ノ見込石數前書ノ通ニ有之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

第五號

以下第一號書式ニ準スヘシ

醬油仕込方法御届

國郡町村番屋敷

製 造 場

免許鑑札番號

醬油下仕込製造法

一大豆 何石

一何麥 何石

一何々 何程

一鹽 何石

一水 何石

此見込膠 何石

但凡何々月ニテ成熟豆麥何々ヨリ何割何歩ノ見込製造方法ノ異ナルモノハ以下倣之
右ハ明治何年(自何月至十二月)醬油仕込方法前書ノ通ニ有之候尤モ以後變更候節ハ其時々御届可仕候也

以下第一號書式ニ準スヘシ

明治十九年五月 甲號

第六號

(製成) 醬油見込石數増(減)御届

國郡町村番屋敷

製 造 場

何月何日御届高

一 (製成) 醬油何石

大豆

何石

何麥

何石

何々

何程

鹽

何石

水

何石

一 (製成) 醬油何石

大豆

何石

何麥

何石

何々

何程

鹽

何石

水

何石

今度増石ノ分

千三百九十四

合計

(製成) 醬油何石

大豆

何石

何麥

何石

何々

何程

鹽

何石

水

何石

(減石ハ左ノ如ク記載スヘシ)

一 (製成) 醬油何石

大豆

何石

何麥

何石

何々

何程

鹽

何石

水

何石

何月何日御届高

(製成) 醬油何石

大豆

何石

何麥

何石

何々

何程

鹽

何石

水

何石

今度減石ノ分

千三百九十五

明治十九年五月

甲號

大豆	何石
何麥	何石
何々	何程
鹽	何石
水	何石
差引	
(製成) 醬油何石	
(仕込) 大豆	何石
何麥	何石
何々	何程
鹽	何石
水	何石

右、明治何年(製成)醬油見込石高前書ノ通増(減)石仕候此段御届仕候也
 以下第一號書式ニ準スヘシ

第七號 醬油製造場建物并諸器械調書

國郡町村番屋敷 造 場

免許鑑札番號
一 醬油製造場建物

一 倉庫	間口何間 奥行何間	何坪	穴藏	何間	何坪
但二階	間口何間 奥行何間	何坪	穴藏	何間	何坪
一 穀藏	間口何間 奥行何間	何坪			
一 納屋	間口何間 奥行何間	何坪			
一 何々	間口何間 奥行何間	何坪			

(區域外建物製造場ニ屬スル分)

國郡町村番屋敷 製造場附屬建物

明治十九年五月 甲號

- 以下右ニ準ス
- 一桶 第何號ニ至ル 何個
- 一桶 第何號ニ至ル 何個
- 一槽 第何號 第何號 第何號
- 一層 第何號ニ至ル 何個
- 一男柱 第何號ニ至ル 何個
- 一締メ木 第何號ニ至ル 何本
- 一釜 何個
- 一麴板 何枚
- 一掛メ袋 何個
- 一垂簾 何個
- 一瓶 但何石何斗入 何個
- 一試シ桶 何個
- 一撥桶 何個

一柄杓 何個
 一椀 何本
 一何々 何程

右製造場建物及諸器械即今所持ノ分前記ノ通相違無之候尤以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

以下第一號書式ニ準スヘシ

醬油桶容量御検査願

國郡町村番屋敷

製造場

免許鑑札番號

第何號

一桶

但新調(買入)(讓受)(修繕)(借入)

口徑

胴徑

底徑

何尺何寸何分

何尺何寸何分

何尺何寸何分

明治十九年五月 甲號

深サ 何尺何寸何分

此石數何拾何石何斗何升何合

第何號

一瓿

但新調(買入)(讓受)(借入)

此石數何石何斗何升何合

(但水量試シ)

右容量御検査被下度此段相願候也

國郡町村番屋敷

營業人 何

某印

年 月 日

第何區

醬油稅検査員御中

第九號

醬油摺リ器械封緘御請書

醬油製造器械ノ内左ノ品々ニ御封印相請候ニ付該器械使用又ハ洗滌修繕等ノ節ハ其旨申立御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲クル日數中ニ必ス使用又ハ洗滌修繕等ヲ了リ御再封相請可申候仍テ御封緘並御解封ノ都度其年月日使用又ハ洗滌修繕日數ヲ左ニ掲記シ御

請印仕候也

年 月 日

縣令 何某殿

國 郡 番屋敷

醬油營業人 何

某印

免許鑑札第

號

國 郡 番屋敷
製造場

器械番

全品目

御封緘

所

年御

月封

日緘

事上御

由願ノ封

日御

並開

= 封

日年

數月

何號

槽

一ヶ所

明治何年何月何日

①

②

洗滌

繕滌

①

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

男柱

一ヶ所

明治何年何月何日

①

②

使用

①

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

何月何日何日

ヶ所

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

○朱書ノ通其時々記入①印ノヶ所へ検査員②印ノヶ所へ營業人捺印スルモノトス

明治十九年五月 甲號

第十號

醬油醱御検査願

免許鑑札番號

國郡町村番屋敷

製造場

第何號仕込

一第何號桶醬油醱

但來ル何月何日頃成熟ノ見込

仕込號數ノ異ナル毎ニ列記スヘシ

右御検査被下度相願候也

以下第八號書式ニ準スヘシ

第十一號

醬油混和醱御検査願

國郡町村番屋敷

製造場

免許鑑札番號

混和第何號

第何號桶何號仕込ノ内

醬油醱

何石何斗

味噌

何貫何百目

何々

何程

鹽

何石

水

何石

以上混和

此見込醱

何石何斗

此見込醬油

何石何斗

右來ル何月何日搾リ上仕度候間御検査被下度相願候也

以下第八號書式ニ準スヘシ

第十二號

醬油御検査願

國郡町村番屋敷

製造場

免許鑑札番號

第何號仕込

一第何號桶

何拾何石何斗

満量

明治十九年五月 甲號

一第何號桶 何拾何石何斗 全上
一第何號桶 何石何斗 端桶但入實深何
尺何寸何分

右ハ何月何日ヨリ何月何日迄摺リ揚ケノ分御検査被下度相願候也
以下第八號書式ニ準スヘシ
第十三號

裏		表	
	國郡町村番屋敷	明治何年何月	醬油製造原品買入帳
	何		國郡町村番屋敷
	某		製造場
			免許鑑札番號
			横帳ニスヘシ以下之ニ做フ

凡例

○一此帳簿ハ製造品トシテ買入タル種類毎ニ口分ヲナシ各別ニ記入シ其月末ニ至リ小計ヲ付シニケ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ

○一製造原品ノ穀類等ニシテ俵數又ハ貫目ヲ以テ買入ルモノハ其俵數及貫目ノ傍ヲニ其石數ヲ記載スヘシ

○一製造原品ニ供スル味噌又ハ酒粕等ノ類ハ貫匁ヲ以テ記入スヘシ

大豆買入ノ部

何月何日 何程

一大豆 何程

何月何日 何程

小計 何程

何月何日 何程

一大豆 何程

何月何日 何程

一大豆 何程

明治十九年五月 甲號

一何百何拾何貫友

混和第二號

何月何日

一何百何拾何貫友

小計何百何拾何貫友

通計何千何百何拾何貫友

以下之ニ倣フ

醬油粕仕拂ノ部

何月何日

何郡町村

一何十何貫友

何某賣渡

何月何日

同上

一何十何貫友

同上

小計何拾何貫友

通計何百何拾貫友

以下之ニ倣フ

○甲第三十九號 十九年四月廿九日

明治十八年(七月)本縣甲第六十九號布達廢止ス
右布達候事

○甲第四十號 十九年五月四日

十五年甲第六十一號布達郡長へ委任條件中十九年度以降左ノ各項ヲ削除ス(改訂)

○甲第四十一號 十九年五月四日

明治十四年(八月)甲第四百十號布達諸貸下金返納規則左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス

右布達候事

諸貸下金返納規則

第一條 諸貸下金ハ毎年納期前納額告知書ヲ所屬郡役所ヲ經テ交付セシムヘクニ付該告知書ニ記載スル處ノ金庫ニ納付スヘシ

第二條 負債者死亡等ニテ名面變更ノ節ハ別紙第一號書式ニ準シ死亡后日數十日以内ニ

明治十九年五月 甲號

縣廳へ届出スヘシ

第三條 諸貸下金二割利引等ノ方法ヲ以テ一時返納ヲ願フモノハ可及詮議ニ付其旨縣廳へ願出スヘシ

第四條 年賦金不得止事故アリテ返納ナシ難キモノハ納期日二十日以前ニ其事由ヲ具シ縣廳へ願出スヘシ

第五條 前條延納ヲ出願スル片ハ戸長ノ立會ヲ受テ其身代ヲ取調別紙第二號調書ヲ製シ願書ト共ニ差出スヘシ

第六條 諸貸下金証書並ニ請書ハ總テ美濃紙袋綴トシ表紙綴目ニ負債者押印スヘシ尤書式ハ其都度証書ハ縣廳ヨリ請書ハ所屬郡役所ヨリ指示スヘシ

第七條 負債者管外或ハ縣内甲乙町村内へ送籍又ハ全戸寄留寓居等ノ節ハ其貸下種類番號負債者ノ姓名并其轉籍地府縣郡區町村名番地等ヲ詳記シ其旨縣廳へ届出スヘシ尤連借者ノ内全額ノモノニシテ分借確証有之分ハ其事由ヲ具シ分借確証ヲ添雙方連署分裂

方願出スヘシ

第八條 負債者年賦皆納ノ節ハ曾テ差出セシ証書類ヲ下戻ニ付縣廳ヨリ渡シ置タル領收証ハ常廳へ郡役所ヨリ渡シタル領收証ハ全所へ返戻スヘシ

(第一號) 借主變更御届

何々貸下第何號
一金

右御貸下金年々(父或ハ養父)何ノ誰ヨリ返納致シ來リ候處何月何日死亡(或ハ隱居家督相續)仕候ニ付本年ヨリ私名面ニテ返納可仕候條此段御届申上候也

年 月 日 何國何郡何町村何番地
縣 令 宛 身分相續人 何 ノ 誰 印

(第二號)

身分調書

一家内人數何人 内 七十歲以上 男(女)何人
十五歲未滿 男(女)何人

明治十九年五月 甲號

一 職業 但一ヶ月又ハ一ヶ年收入金何程
 一 所有品
 建物何ヶ所 内 居宅建坪何坪
 土藏建坪何坪
 地所何ヶ所 内 田反別何反何畝何歩 地價何程
 何々 畑全 全全全 此見積代金何程
 一 貸金何程 内
 金何程
 一 借金何程 内
 借主何郡何町村何ノ誰
 何那何町村
 借主 何 何
 親属 何 何
 右戸長 誰 誰
 誰 印
 誰 印
 右戸長并親属ノ立會ヲ受取調候處相違無之候也
 年 月 日

縣令宛

何ノ誰印

○甲第四十二號 十九年五月十一日

凡ソ烟草ヲ栽植セントスルモノハ畝歩ノ廣狹及ヒ自用ト販賣トニ拘ハラヌ又自作ト小作トニ拘ハラヌ都テ其作人ニ於テ毎年左ノ事項ヲ縣廳ニ届出ヘシ

但昨十八年作付反別并收穫高ハ此際取調第二號書式ニ準シ來ル六月三十日限リ届出ヘシ

シ戸長役場ニ於テハ之ヲ一村限區別シ役場部内取纏メ七月十日限郡役所ニ差出シ郡役

所ハ郡内取纏メ同月廿日限縣廳ニ進達スヘシ

第一項 烟草作付地ノ反別并ニ收穫見積高等第一號書式ニ倣ヒ其年四月卅日限届出ヘシ

第二項 烟草收穫葉量ヲ第二號書式ニ倣ヒ翌年一月三十一日限リ届出ヘシ

第三項 第一項届出ノ後天災其他ノ事故ニ由リ作付反別ノ一割以上増減或ハ全廢シタル

場合ニ於テハ第三號書式ニ倣ヒ翌年一月三十一日限届出ヘシ

明治十九年五月 甲號

第四項 戸長役場ニ於テハ前各項ノ届書ヲ一村毎ニ區別シ役場部内取纏メ第一項ノ分ハ五月十日第二項第三項ノ分ハ翌年二月十日限郡役所ニ差出シ郡役所ハ郡内取纏メ第一項ノ分ハ五月廿日第二項第三項ノ分ハ翌年二月廿日限縣廳ニ進達スヘシ
右布達候事

(第一號書式) (用紙野半紙)

烟草作付御届書

何郡何村

字何々

何番

何郡

何村

地主

何

某

(甲)一畑何反何畝步

此作付烟草ヨリ收穫スヘキ乾上葉量見込凡ソ何貫何百目

何月 權付
何月 採收ノ見込

但烟草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

○印原文朱書

何郡何村

字何々

何番

(畑)

(宅地)

何反何畝何步ノ内

何郡

何村

地主

何

某

(乙)一(畑)

(宅地) 何拾何步

此作付烟草ヨリ收穫スヘキ乾上葉量見込凡何貫何百目

何月 權付
何月 採收ノ見込

但烟草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

○畑或ハ宅地一筆ノ内其幾部分ニ烟草ヲ作ルモノハ右乙ノ例ニ倣ヒ届出ヘシ

○作人一人ニシテ數筆數ヶ所ノ地ニ烟草ヲ作ルモノハ右甲乙ノ例ニ準シテ幾筆ニテモ之ヲ一通ノ届書ニ列記差出スヘシ

右者明治何年何月烟草作付反別并ニ收穫見積前書之通ニ御座候此段御届申上候也

何郡何村何番屋敷

明治年月日

三重縣令姓名殿

右作人

姓

名印

(第二號書式)

(用紙野半紙)

煙草收穫乾上葉量御居書

何郡何村

字何

何番

何郡

何村

地主

何

何月採

上收

某

(甲)一畑何反何畝步

此收穫乾葉何貫何百目

但煙草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

何郡何村

字何

何番

畑

(宅地)何反何畝何步ノ内

何郡

何村

地主

何

何月採

上收

某

(乙)一(宅地)何拾何步

此收穫乾葉何貫何百目

明治十九年五月 甲號

千四百二十三

但煙草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

右者明治何年何月煙草收穫乾葉前書ノ通ニ御座候此段御居申上候也

明治年月日

三重縣令姓名殿

右作人

姓

名印

(第三號書式)

(用紙野半紙)

煙草作付反別并ニ收穫葉量(増)(減)(全廢)御居書

畑何反何畝何步御居高(ノ内)(ノ外)(全廢)

何郡何村

字何々

何番

何郡

何村

地主

何

何月採

上收

某

一畑何畝何拾步

此收穫乾葉何貫何百目

但煙草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

○作付反別ノ減シタル片ハ乾葉ノ下凡ソト記シ且何月採收何月乾上ノ八字ヲ減量ノ二字ニ換ヘ其全廢シタル片ハ作付反別ノミヲ記シ届出ヘシ

烟 (宅地) 何拾何步御厨高(ノ内)(ノ外)(全廢)
何郡何村

字何々

何番 (宅地) 何畝何歩ノ内

一 (宅地) 何拾何歩

此收獲乾葉何貫何百目

但煙草種類柳葉(丸葉)(小糸)等ノ類

。朱書前同斷

右者明治何年何月煙草作付反別并ニ收獲乾上葉量前書之通(天災)(何々)ニ付(增加)(減量)(全廢)任候此段御届申上候也

明治年月日

三重縣合姓名殿

○甲第四十三號 十九年五月十一日

十五年甲第六十一號布達郡長委任條件中左ノ一項削除(改訂)

何郡何村何番屋敷

右作人

姓

名印

何郡

何村

地主

何

某

何月 何月 乾採 上收

○甲第四十四號 十九年五月二十日
三重縣々立病院規則別冊ノ通改定ス
右布達候事
(別冊)

三重縣々立病院規則

第一條 本院ハ入院及外來患者ヲ診察治療スル所ニシテ兼テ管内衆庶ノ往診請求ニ應ス

第二條 外來患者診察ノ時限ヲ定ムルコト左ノ如シ

但急病ハ此例ニアラス

一 九月一日ヨリ 四月九日マテ 午前九時三十分ヨリ午後三時マテ

一 四月十日ヨリ 七月二十日マテ 午前八時三十分ヨリ午後二時マテ

一 七月廿一日ヨリ 八月卅一日マテ 午前八時ヨリ正午十二時マテ

一 毎日曜日正午十二時マテ

明治十九年五月 甲號

第三條 年中休日ヲ定ムル左ノ如シ

歲首 一月一日ヨリ三日マテ

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十日

春季皇靈祭

神武天皇祭 四月三日

秋季皇靈祭

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

歲暮 十二月二十九日ヨリ三十一日マテ

但右ノ如ク休暇ヲ定ムト雖當直員ハ平日ト同様タルヘシ

第四條 外來患者診察ヲ請フ者ハ取次所ニテ番號票ヲ受取リ溜リ所ニ扣ヘ呼出シニ從ヒ診察ヲ受クヘシ

但診察所ニ於テ職業族籍姓名年齢等ヲ通シ名札ヲ受取毀損セサル様保存シ自後來院又ハ藥取リノ節必ス持參スヘシ

第五條 診察終ラハ與フル處ノ處方箋ヲ諸務局ニ出シ藥價拂濟ノ後藥局ニ至リ調劑ヲ請フヘシ

第六條 本縣内ノ者又ハ寄留ノ者ハ診察料ヲ要セス他府縣ノ者ハ初診金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

但二診以上ハ之ヲ要セス

第七條 外來患者ノ藥價手術料及療用品ノ代價ヲ定ムル左ノ如シ

水藥 一日 四錢以上 散藥 一包 壹錢五厘以上

丸藥 一包 壹錢五厘以上 頓服藥 一回分 貳錢以上

明治十九年五月 甲號

以上ノ藥價小兒ハ其半價タルヘシ

滴藥	一瓶	拾錢以上	塗擦藥	一瓶	五錢以上
洗滌藥	一瓶	三錢以上	膏藥	一具	壹錢五厘以上
点眼水	一瓶	五錢以上	耳藥	一瓶	五錢以上
合嗽藥	一瓶	五錢以上	巴布藥	一袋	三錢以上
撒布藥	一包	壹錢五厘以上	嗅入藥	一瓶	四錢以上
座藥	一個	貳錢以上			

手術料燻及注射器綑帶等ノ價ハ其時々之ヲ定ム

第八條 患者入院ヲ請フ者ハ院長若クハ醫長ノ診斷許可ヲ受テ左ノ書式ニ准ヒ本院近傍身元健ナル証人ノ保証狀ヲ差出スヘシ

保証狀 証券印紙貼用

何郡町村番屋敷身分

何ノ誰

何年何ヶ月

右ノ者入院治療相願候上ハ本入在院中諸規則等遵守セシムヘキハ勿論其他一切ノ事件私引受可申若シ本人入費不納ノ節ハ私辨償可致依テ入院証書如件

何郡町村番屋敷身分

身元引受人

年月日

何之誰印

三重縣立病院御中

追テ私儀轉居旅行致候節ハ速ニ御届可申候也

第九條 本院近傍身元健ナル証人無之患者ハ其町村(本籍又ハ寄留地)身元健ナル証人ノ保証狀ニ戸長ノ與書ヲ受テ持參スヘシ

但入院保証狀ハ前條ニ準ス

第十條 入院患者自カラ附添人ヲ伴ハント欲スル片ハ醫局ノ許可ヲ得テ諸務局ニ至リ其指示ヲ受クヘシ

明治十九年五月 甲號

千四百二十九

但附添人ニ屬スル諸費ハ入院費ノ外別ニ收納スヘシ

第十一條 入院費ハ毎月二回即十六日及翌月一日ヲ以テ諸務局ニ收納スヘシ

但納期前退院スルモノハ其節全費ヲ收納スヘシ

第十二條 當分ノ内入院料ヲ定ムル左ノ如シ

上等	一日分	金四拾五錢	中等	一日分	金三拾錢
下等	一日分	金貳拾錢			

但十歳未満ノ兒童ハ本費ノ三分ノ二トシ又附添人ハ一日金貳拾五錢以下拾二錢以上ヲ收納スヘシ

第十三條 上等入院料ヲ納ムルモノハ一人ニ一室ヲ與ヘ中等以下二人以上雜居セシムルコトアルヘシ

第十四條 下等入院料ヲ納ムル者藥用又ハ賄ノ外特ニ牛乳肉ノ糞汁雞卵等ヲ要スルハ

第十三條入院料ノ外更ニ其代價ヲ納メシムルコトアルヘシ

第十五條 本縣内無資力貧困者ノ入院施療方法ハ別ニ定ムル處ノ規則ニ依ル

第十六條 六種傳染病患者ノ入院ハ當分ノヲ謝絶ス

但入院中本文ノ病患ヲ發スル片ハ時宜ニ依リ退院セシムルコトアルシ

第十七條 患者重症若クハ事故アリテ病院ニ來ルコト能ハズ來診ヲ請フ片ハ院長醫長醫員當直醫便宜往診スヘシ

第十八條 往診料醫員旅員車駕雇料等ハ病家ノ負擔トシ其額ヲ定ムル左ノ如シ

往診料

二里未満一里以上ハ往診料トシテ金貳拾五錢三里以上ハ金壹圓トシ其序ヲ以テ往診スルモノハ一人ニ付金貳拾五錢更ニ迂回スルモノハ金五拾錢ヲ收メシム

往診旅費

一里以上ハ往返共一里ニ付金拾五錢ヲ徴ス但一里未満ハ近傍派出トシテ實費ヲ收メシム

往診車駕雇料

雇夫ノ賃錢ハ晴雨晝夜ノ別ナク往返共一人一里金七錢二人挽金拾四錢ヲ支給セシム
ヘシ但往診先ニ於テ滞留二時間以上ニ渉ル時ハ三時間目ヨリ一時間毎ニ一人ニ付金
貳錢ノ割ヲ以テ其時間ニ應シ滞留費ヲ支給セシム尤患者ノ病症ニ依リ宿泊スルトモ
本費ノ外別ニ宿泊料支給スルニ及ハス

但二里未滿ハ本項ニ準シテ賃費ヲ支給セシムヘク又往診先ニ於テ更ニ他ノ依頼ニ
應シ迂回往診シタル片ハ其迂回ニ係ル旅費及車駕料等ハ別ニ之ヲ支給セシムヘシ
第十九條 親戚知音ノ者入院患者ヲ尋訪セントスルトキハ本院職員ノ許可ヲ受ヘシ
但許可ヲ得スシテ漫リニ飲食物ヲ患者ニ與フルヘカラス

附 則

入院患者の心得

第一條 入院したるものは病氣のことは一切醫員に委任して自分に過慮すへからず唯々

虚心に醫員より示したる養生法を守るか肝要なり

第二條 服藥は病人の守るべき最も大切なことなれば醫員より指示したる通りに時刻
を違す用いるへし總て藥は苦味又は不快なる臭あるものなれば可成丈辛抱して服用す
へきは勿論なれども若し服し難くして爲めに嘔吐を發する時は其儘捨置かすして看護
婦を以て醫員に申出つへし

第三條 日々の食物は藥用に次ぐ大切な事なれば病氣の摸様に依りて夫々醫員より贈
方に指揮して進るものなれば病人の勝手にて病室内に於て飲食物を調理食用すへから
ず若別に好き物あれば看護婦を以て醫員に問ひ其指圖に遵ふへし

第四條 身体の運動と静息とは療治の爲めに緊要なる事なれば醫員の指圖に従ひて運動
し又は静息し妄りなる舉動あるへからず

第五條 總て身体及び身廻りを清潔にする事は病氣の爲め甚だ肝要なり故に看護婦看
病人は不斷洗拭掃除するは勿論なれども自分に於ても常に不潔ならざる様注意すへし

- 第六條 若し自分に病氣の變りたるを覺へたるときは醫員の廻診時刻の外たりとも直様看護婦を以て當直の醫員に知らすへし
- 第七條 大聲を發して談話し或は新聞紙等を朗讀し又は室内を疾歩する等他の患者の安靜睡眠を妨ぐる等の所業あるへからす
- 第八條 醫員の許可なくして妄に病室を離るへからす若し用事ありて他に出する時は醫員の許可を受くへし
- 第九條 男女相互に病室を往來するは勿論各室互に往來すへからす若し用事あるときは醫員の許可を得て後ち往來すへし
- 第十條 看護婦に金錢物品を與へ又は患者相互に金錢を貸し借りし又は飲食物の贈答をすへからす
- 第十一條 看護婦若し看病を怠り或は不深切の仕向あるときは又は賄方より進むる飲食物不潔不良なる事あらは直に醫員又は病室掛に申出すへし

第十二條 入院の者は醫員の指圖なき間は自儘に退院すへからす又入院の者前條々の規則を守らざるときは退院を命することあるへし

看護婦心得

- 第一條 看護婦は院長醫長其他職員の指圖に従ひ入院外來を問はず患者の取扱は親切丁寧に注意すへし
- 第二條 看護婦は患者手術付添時間の外須臾も受持病室を離るへからす
- 第三條 大患又は起臥不自由なる患者は毎に注意して看護し飲食及服藥は自から之を與へ且服用時間を誤るへからす
- 第四條 醫員回診の時又は醫員の注射注射膠帶交換等を施すの際は受持患者の傍に侍し其指圖を受けて補助すへし
- 第五條 患者より請求することあれば何事に拘らず總て醫員に申達し私に之を取扱ふへからす又患者若くは患者關係の者より聊かたりとも金錢物品等を受くへからす

第六條 毎朝患者盥嗽の世話を爲すは勿論病室の掃除を嚴重にし患者の洗濯に用ひたる汚水の汚染したる綑帶衣衾等須臾も室内に留置へからず一定の場所に放棄し總て清潔を旨とすへし

但毎朝兩便所の掃除を怠るへからず

第七條 時々窓戸を開き空氣を流通し季候の寒暖に應じ室内の溫度を適當ならしむことを務むへし

第八條 患者の別に疾苦を訴ることあれば直に醫員に通知し假令へ訴へざるも自から異變ありと見認むるときは速に醫員に通知すへし

第九條 患者の醫員より示したる藥用及養生法を守るや否やに注意し若し守らざるものあるときは之を醫員に告知すへし

第十條 受持患者手術場に出るときは常に付添看護すへし

第十一條 患者の親族知音の者來訪するときは之を醫員に通知し認可を得て病室に誘ふ

へし

但飲食物を贈付するも同様たるへし

第十二條 患者外出せんと欲するものあるときは先づ醫員に通知して其認可と否を患者に通すへし

第十三條 毎朝醫員回診の後には藥器を集め處方録と共に藥局に差出し調劑整理の報わらは之を受取り各患者に配付すへし

第十四條 患者に用ひたる藥器牛乳壺の如きは毎日洗滌し清潔にすへし其尿器痰器唾壺の如きも同斷たるへし

第十五條 新に入院したる者あるときは病室掛より蒲團其他の器具を受取り整備の後患者を誘ふへし

第十六條 點燈時限來らは總て戸締を爲し若し來訪人未だ退出せざるときは其退出を促すへし

但病症危篤等の爲めに一泊せんと欲するものあるときは醫員に通知し其の許可と否とを通すへし

第十七條 醫員の許可ありて退院する患者は其退院の節一應醫員に通知すへし

第十八條 毎月一日及十六日に患者より拂ふ處の入院料を取次記之を病室掛に差出し受取証書を患者に渡すへし

第十九條 看護婦補助は看護婦の指圖に依り病室内外の掃除器品の洗拭厠便器の清潔行燈の掃除等を負擔すへし

第二十條 看護婦及看護婦補助にして前條々の心得を守らざるか又は違犯したると認めらるるときは相當の處分を爲すへし

○甲第四十五號 十九年五月十五日

清潔法執行ノ儀ニ付テハ兼テ及布達置候處兎角等閑ニ差置近來接隣府縣ニ於テ虎列拉病流行ノ兆有之該病ノ媒介ヲナス等ノ儀有之候テハ不容易ニ付此際市街掃除規則ニ依リ充

分ノ掃除ヲナスヘシ其各自地内ノ溝渠下水井側及厠房塵捨場等モ亦同様掃除修理スヘシ掃除執行方法ノ日限ハ郡役所又ハ掛員ヨリ指示スヘシ若シ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

但時々掛吏員及巡查ヲシテ之ヲ視察セシメ若シ日限内ニ施行セス又ハ執行スルモ充分ナラサルトキハ郡役所ニ於テ直ニ掃除改修シ其費用ヲ徴收スヘシ

右布達候事

○甲第四十六號 十九年五月廿一日

漁業組合準則左ノ通相定ム

右布達候事

漁業組合準則

第一條 漁業(水産動物採捕ヲ併稱ス)ニ従事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ請フヘシ

明治十九年五月 甲號

但漁業者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ組合ヲ設ケサルモ妨コレナキニ付キ豫メ郡長ニ於テ取調常屬ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トナス

第一類 捕魚採藻(遠海漁業若クハ大地引海鼠漁石花菜採收ノ類)各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員選舉法及權限

四 會議ニ關スル規程

五 加入者及退去者ニ關スル規程

六 違約者處分ノ方法

七 費用ノ徵收及賦課法

八 捕魚ノ季節ヲ定ムル事

九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事

十 漁場區域ニ關スル事

十一、前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスル片ハ當廳ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスル片ハ當廳ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 他府縣ニ涉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ本條ニ準スヘシ

第九條 他府縣ニ涉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設クヘシ

第十條 前條事務所本部ヲ他府縣下ニ設クルハ縣下ニ事務所支部ヲ置クヘシ

但組合ノ事情ニ依リ其必用ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○甲第四十七號 十九年五月廿六日

十六年甲第六十二號布達娼妓貸座敷規則第二節第一條「徵毒病院」ノ下ニ「又ハ徵毒検査所」ノ七字ヲ加フ(改訂)

○甲第四十八號 十九年五月二十二日

本縣布達々告示各課報告等本年六月一日ヨリ伊勢新聞作新日報ニ登載スルヲ以公式トス
右布達候事

●甲第四十九號 十九年五月廿五日

本年(五月)甲第四十二號布達煙草作付地反別等届出方手續第一項ノ期限及ヒ第四項中五月十日五月廿日ノ兩期ハ本年ニ限リ同號布達但書昨十八年作付地反別届出方期限之通相心得作人ハ六月三十日戸長役場ハ七月十日郡役所ハ七月二十日限縣廳へ進達スヘシ
右布達候事

○甲第五十號 十九年六月一日

十五年甲第百一號布達本縣布達々類凡例第三項中學務委員以下八字并ニ第八項第九項削除(改訂)

○甲第五十一號 十九年六月八日

本年甲第三十八號布達醬油製造營業人心得方規則第十九項改正(改訂)

○甲第五十二號 十九年六月八日

検査濟ノ醬油又ハ溜へ鹽水ヲ混和シ之ヲ烹煮スルモノハ製造ニ準シ其増石數ニ就キ課税スヘキ旨及指令置候向モ有之候處自今粕漉ヲ除クノ外ハ課税セサル義ト心得ヘシ

明治十九年六月 甲號

但本文ニ抵觸スル從前ノ達及ヒ指令ハ都テ之ヲ取消ス

右布達候事

○甲第五十三號 十九年六月十日

豫備後備兵ノ點呼ハ本籍地方ニ於テ之ヲ受クヘキ成規ノ處學術修業若クハ商業等ノ爲メ
他府縣へ寄留スル者(一縣内ト雖モ他軍管内へ寄留スル者亦同シ)寄留地ニ於テ點呼召集
ニ應セント欲スル片ハ本籍戶長ノ與書証印ヲ以テ所轄郡役所并ニ郡駐在官縣駐在官經テ
テ後備軍司令官へ出願スヘシ

右布達候事

○甲第五十四號 十九年六月十日

十七年甲第百十四號布達巡查志願者心得書第一條第二條中改正(改訂)

●甲第五十五號 十九年六月十一日

コレヲ病流行地方ヨリ古着襪履ノ輸入ヲ禁ス違フモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

右布達候事

●甲第五十六號 十九年六月十七日

虎列拉病發生シタル片ハ其町村ヨリ古着襪履及紙屑類ヲ他ノ健康地へ出スヲ禁ス違フモノハ
違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

右布達候事

○甲第五十七號 十九年六月十九日

十八年甲第三十三號布達驛傳營業取締規則中第二條陸運稼業人ノ割註(橋梁)ノ二字及第
十四條中(常ニ)ノ二字消除(改訂)

○甲第五拾八號 十九年六月十九日

他府縣下戶長公証割印變更正其他諸鑑札紛失等之義官報府縣公報欄内ニ登載アルモノハ
自今右ニヨリ周知スルモノトシ告示達ヲ發セス

右布達候事

明治十九年六月 甲號

○甲第五十九號 十九年六月二十日

飲食物ニ蠅類ノ点集スルハ飲食物ヲ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介トナルノ虞アルニ付其儘食用ニ供スル飲食物ハ各自注意シ殊ニ店頭ニ露陳シ又ハ行商スルモノハ硝子其他ノ物品ヲ以テ覆蓋ヲ設クヘシ

右布達候事

○甲第六十號 十九年七月三日

賣藥印紙買入及賣捌ノ手續左ノ通心得ヘシ

- 一 賣藥營業人ハ所轄郡役所ニ願出賣藥印紙買入鑑札ヲ受テ印紙買入ノ都度之ヲ携帶シ印紙類賣捌人ニ示スヘシ
- 一 印紙類賣捌人ハ其鑑札ヲ照査シ而シテ賣捌ヲナスヘシ
- 一 賣藥印紙買入鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改姓名轉居セントキハ之ヲ所屬郡役所ニ届出鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 賣藥營業人廢業若クハ滿期又ハ禁止セラレタルトキハ賣藥印紙買入鑑札ヲ所屬郡役所ニ還納スヘシ

右布達候事

○甲第六十一號 十九年七月七日

暴瀉若クハ吐瀉ノ二症ヲ兼發シタル患者ヲ診察シタル醫師ハ即時ニ郡役所警察署分署巡查派出所長役場等便宜ノ場所ニ届出スヘシ違フモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

右布達候事

○甲第六十二號 十九年七月九日

鮫貝章魚蝦蟹其他飲食ニ供スヘキ物品ニシテ汚塵若クハ蟲類ノ付着或ハ腐敗ニ屬スル等總テ衛生上有害ト認ムルモノハ警察官吏ニ於テ其販賣ヲ差止メ其物品ヲ棄却セシムルヲアルヘシ若シ違フ者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

右布達候事

明治十九年七月 甲號

●甲第六十三號 十九年七月十日

コレヲ病各地ニ流行シ其勢猛劇ニ付當分ノ内神佛祭禮及劇場寄席等豫防上有害ト認ムル
場合ニ於テハ警察官ヲシテ禁止セシムヘシ

右布達候事

◎甲第六十四號 十九年七月十六日

明治十六年(四月)甲第二十七號布達賣藥營業人心得方規則第五條藥劑買入帳ノ次へ左ノ
二帳ヲ追加シ且該規則中諸帳簿書式別紙之通相定候條自今右ニ照準記載スヘシ(改訂)

行商渡藥劑帳 行商人員帳

右布達候事

○甲第六十五號 (欠)

●甲第六十六號 十九年八月廿四日

虎列刺病流行ニ付神佛祭禮古着類輸送等禁止ノ儀本年甲第六十三號及甲第五十六號ヲ以

テ及布達置候處尙ホ縣下流行地ニ於テハ神佛祭禮等ニテ人民ノ群集スルコト劇場寄席ヲ
開場スルコト古着襪襪紙屑類ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止ス違フ者ハ違警罪ノ刑
ニ處セラルヘシ

右布達候事

○甲第六十七號 十九年八月廿七日

諸公債證書買賣讓與并元利賦金支拂ニ付届出方ノ義左ノ通改定ス

但本年四月甲第三十四號布達及明治十二年甲第五十九號布達ハ來ル十一月一日以降廢
止ス

右布達候事

第一條 諸記名公債證書買賣讓與等ノ節ハ第一號書式ノ届書ニ証書相添届出ツヘシ

但管外へ賣渡又ハ轉籍寄留等ニテ證書ノ所轄換ニ係ルモノハ届書正副二通ヲ差出ス
ヘシ

明治十九年八月 甲號

第二條 諸記名公債證書所有者管内各地へ轉籍寓居等ニテ居住地ヲ轉換スルモノハ其都
度別紙第二號書式ニ係リ届出ツヘシ

第三條 利賦金支拂ノ季節ニ臨ミ諸記名公債證書買賣譲與ニ係ル檢印届ハ左ノ期限ニ縣
廳へ到達ノ分ハ受理シ其翌日ニ係ル分ハ受理セサルヘシ

但管外へ轉居寄留等ニテ證書ノ所轉換ニ係ル届書并管外ヨリ買受譲受ニ係ル分及管
内遺留引受ニ係ル檢印届ハ本文ノ限ニアラス

金 祿公債證書 毎年 三月卅一日限

新公債證書 毎年 九月三十日限

舊公債證書 毎年 四月三十日限

毎年 十月卅一日限

第四條 明治十九年十一月一日以後ニ係ル諸記名公債證書ノ元利賦金支拂方ハ本年(七月)
大藏省令第二十四號ノ通日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ取扱フヘキニ付記名公債證
書起業公債 所有者ハ其所有證書元利賦金ノ取扱店ヲ指定シ明治十九年十月十五日迄ニ
ヲ除ク

本日迄ニ當廳へ到 當廳へ届出ツヘシ又以後第二條ノ轉居等ニテ其元利賦金取扱店ノ變
達セシムルヲ要ス 更ニ其取扱店ヲ指定シ届出ツヘシ

但新ニ公債證書ヲ讓受買入レタルモノモ本文同様其都度届出ツヘシ

第五條 諸記名公債證書起業公債 所有者ハ明治十九年十月十五日迄ニ其姓名住所印鑑ヲ
戸長ノ保証ヲ得テ第四條ノ指定セシ取扱店へ差出スヘシ

但改姓名代換リ改印等ノ片并元利賦金ノ取扱店ヲ變更セシ片及新ニ公債證書ヲ讓受
買入レタルモノモ本文同様其印鑑ヲ差出スヘシ

第六條 明治十九年十一月一日以後ニ係ル元利賦金事故アリ其受取方ノ延期ヲ請フモノ
ハ其事由ヲ具シ當廳へ出願スヘシ而シテ當廳ノ指令ヲ得テ本人之ヲ取扱店ニ示シ其証
明ヲナシ之レカ延期ヲ請フヘシ

但后日事故相解タ金員請求ノ片モ本文全條ノ手續ヲ經テ之ヲ受取ルヘシ

第七條 明治十九年十一月一日以前ニ係ル元利賦金事故有之受取方延期許可セシモノ全

日以后事故解融該金ヲ請求セントスルトキハ常廳へ願出スヘシ
(第一號)

何々公債証書賣(讓)渡(遺留引受)ニ付檢印御届

(本人事故アリ代理者ヲシテ取扱ハシムル片ハ成規ノ委任狀ヲ添付スヘシ)

(金祿ハ何分利)(金札ハ何年發行)

一何公債証書何千圓

内

何百圓	記號	番號	何枚
何拾圓	全	全	何枚

右公債証書是迄所有ノ處今般何々ニ付示談ノ上遺留物トシテ

何府縣下何國何郡(區)何町村番地

身分 何ノ誰ヘ

(遺留物引受ノ分ハ何府縣ヨリ何ノ誰ヘ迄ノ二十字ヲ除ク)

讓(賣)渡(引受)候間此段御届申上候也

年 月 日

三重縣何郡何町(村)何番地
身分 何ノ誰印

三重縣知事宛

(第二號)

轉籍或ハ轉居 御届

(肩書第一號書式ニ全シ)

何郡何町(村)(元居住地ヲ記載ス)

一何公債証書何百何拾圓

身分 何ノ誰

右公債証書所有之處今般都合筋ニ付

何郡何町(村)何番地へ(寓居ハ何ノ誰方ヘトスヘシ)

轉籍(或ハ寓居)候條此段御届申上候也

明治十九年八月 甲號

年 月 日

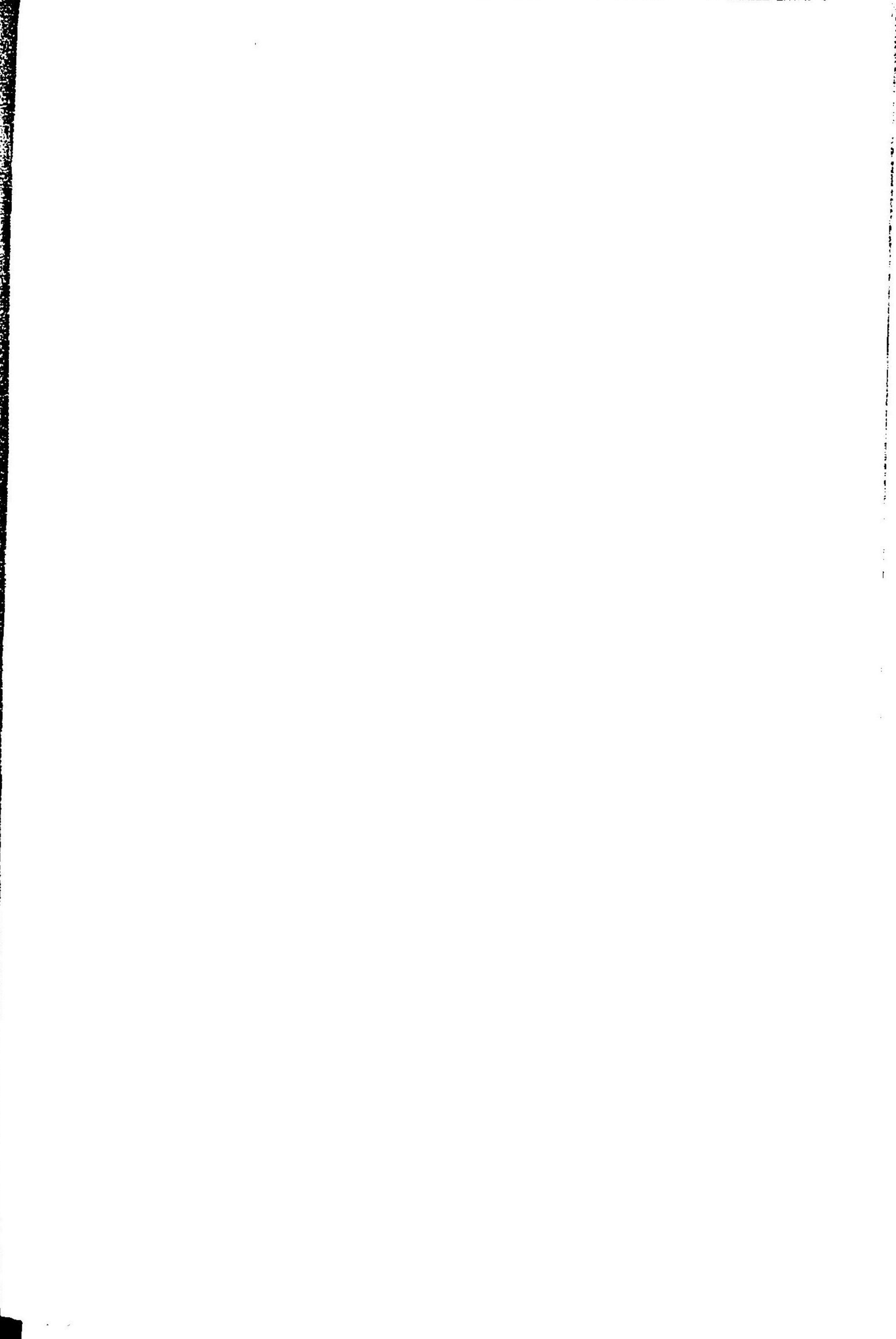
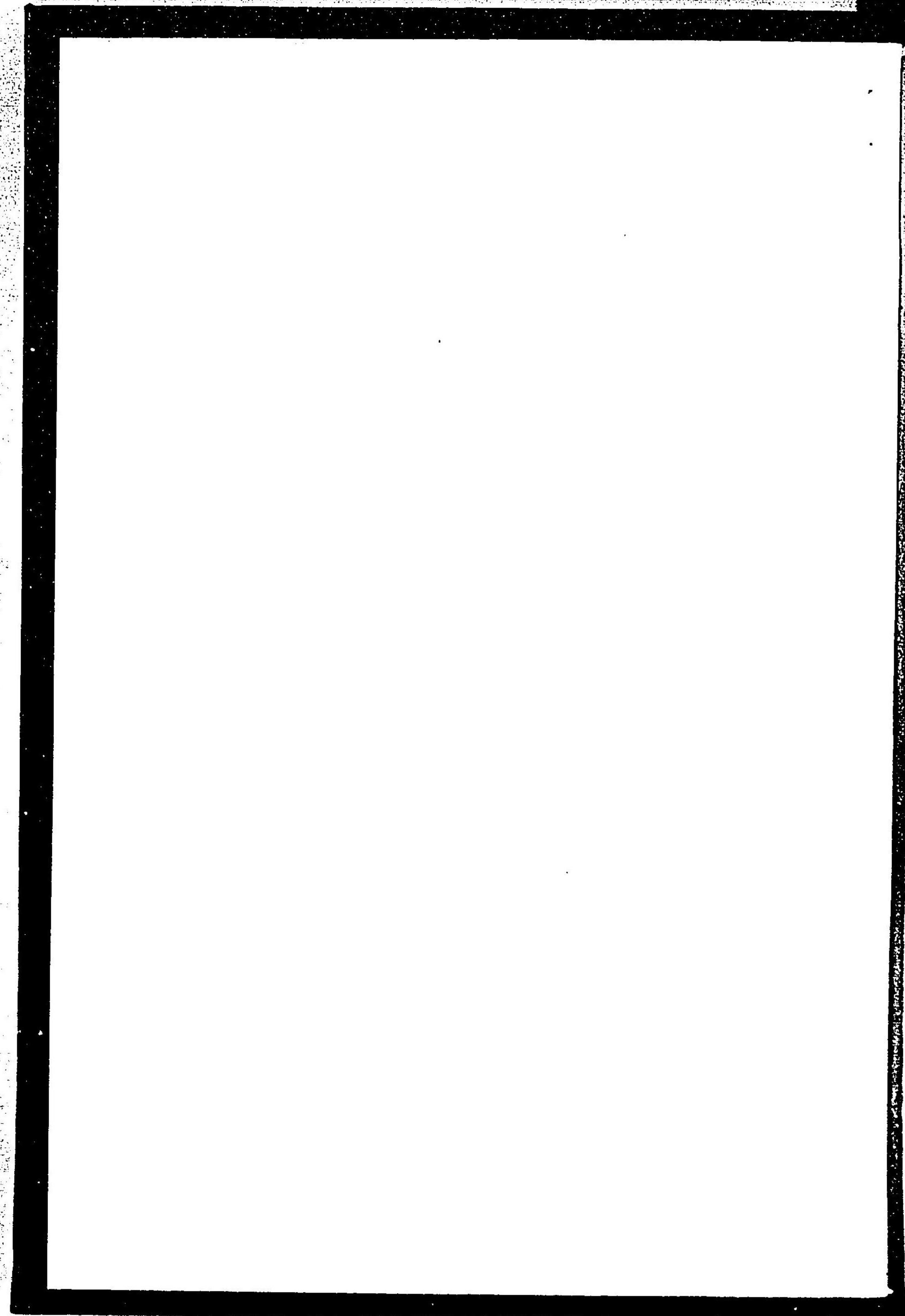
右 何 之 誰 印

三重縣知事宛

◎甲第六十八號 十九年八月三十日

十八年甲第六十號布達菓子營業人心得方規則第十一項中第四號書式及第十二項中第五號第六號第七號第八號書式更正(改訂)

四百三十三丁	甲	正課	來月ハ(來ル)ノ課
五十四丁	末行	計シハ(計シ)ノ課	潮紅ノ下(眼)ヲ脱ス
九十五丁	三行	上段八行	府ノ儀縣會ハ(府縣會ノ儀)ノ課
百二十九丁	同行	同行	在住ハ(在任)ノ課
同丁	六行	六行	用ヒタルハ(用ヒサル)ノ課
百八十九丁	四行	四行	溝渠ノ下(等)ヲ脱ス
二百五十九丁	六行	六行	第三十三條ハ(第四十三條)ノ課
二百二十七丁	八行	八行	在位ハ(有位)ノ課
二百六十六丁	六行	六行	十四年ノ下(度)ヲ脱ス
二百七十二丁	九行	九行	辨價ノ下(セ)ハ行
三百十二丁	二行	二行	地價ハ(地價)ノ課
三百十四丁	八行	八行	月價ハ(月價)ノ課
三百三十九丁	十二行	十二行	開場ハ(閉場)ノ課
三百五十二丁	四行	四行	道具屋ハ(古道具屋)ノ課
三百六十七丁	四行	四行	道具屋ハ(古道具屋)ノ課
三百八十九丁	六行	六行	布達ハ(論達)ノ課
三百八十一丁	三行	三行	受クハ(受ク)ノ課
四百七十六丁	末行	末行	受クハ(受ク)ノ課
五百丁	初行	初行	書式ハ(書式)ノ課
六百五十六丁	四行	四行	桶瓶願ハ(桶瓶類)ノ課
六百五十七丁	二行	二行	桶瓶類ハ(桶瓶類)ノ課



1972

1972

1972

1972

